

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:3月】

平成24年3月8日(総12第09号)
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

- (1)2月21日深夜からクロボカン地区のデンパサール刑務所内で一部受刑者が放火して暴動が発生。刑務所内が一時暴徒に占拠されたが、警察部隊による鎮圧により翌朝には収拾。22日夜に受刑者が火炎瓶を外の道路に投げるなど再び小規模な騒動が発生したが、警察部隊の説得により鎮静化。騒動の背景には、同刑務所の定員325名に対して、1,015名が収容されており、待遇差別などに対する不満が鬱積していた由。(一連の騒動で脱走した受刑者はなし。)
- (2)2月23日、米国は、ジュマ・イスラミーア(JI)の精神的指導者とされるアブ・バカル・バアシルが主宰するイスラム団体(ジュマ・アンショール・タウヒド(JAT))をテロ組織と認定。同月27日、最高裁はアブ・バカル・バアシルの上告審判決で、控訴審の判決(禁固9年)より重い判決(禁固15年)を言い渡した。
- (3)夜間若者によるバイク暴走行為が見られます。主に夜間交通量の少なくなる広い道路で発生しています。警察も取り締まりを行っていますが、抜本的な解決には至っていません。不測の事態に巻き込まれないため、そのような現場には近づかない、自分で運転をしない等の自己防衛策を怠らないようにしてください。

2 一般情勢

- (1)2月17日、デンパサール市内で家庭用プロパンガス(LPG)販売店でガスボンベが爆発。従業員ら17名が重軽傷を負い、病院へ搬送。
- (2)2月24日、インドネシア保健省は、バリ州バドゥン県クロボカン地区において鳥インフルエンザ(H5N1)陽性例(12歳男児。21日死亡)が確認された旨公表。同男児の父親が闘鶏を飼育していた由であるが家族等が感染した情報はない。(インドネシアでのこれまでの累計患者数は186例、うち154例が死亡。本年の患者例は3例目(すべて死亡))
- (3)3月5日、ロンボク島マタラムで、4月1日からの石油燃料(BBM)費値上げを反対する学生約100名がデモ。
- (4)雨期の終わる現在の時期は例年デング熱患者が多く発生しています。日本の国立感染症研究所によればインドネシアで感染した輸入症例が例年この時期増加することから、デング熱に注意してください。具体的な対策は当館ホームページwww.denpasar.id.emb-japan.go.jp/japan/04_02safe.html#id2をご覧ください。
- (5)3月23日(金)はニュピです。既に渡航情報www.denpasar.id.emb-japan.go.jp/japan/info/info12_07.pdfが発出されていますが、各自で必要な対策を行ってください。

3 邦人事故・事件関連

- (1)総領事館が入手している邦人に関連する事件等の件数は年末年始に比べると減少していますが、2月中にも旅券のスリ被害や紛失事案が発生しました。旅券の管理には引き続き御留意下さい。
- (2)当地のホテルにおいて、宿泊代の精算前後にクレジット・カードが紛失した事案が発生しています。上記の事案では、ホテル側はクレジット・カードを領収書とともに封筒に入れて返却したと主張していますが、清算後のクレジット・カード返却を確認するようにお勧めします。

以上